

(2)

香港

REEL No. A-1201

0452

アジア歴史資料センター

註  
同文電 17.00 9-11-41 編入

香港矢野総領事宛外務大臣發

一 本邦に於て敵國人として收容したるは米、英、蘭の適齡男子のみなりメキシコ、パナマ、キューバ、コロンビア、希臘、埃及白耳義、ベネズエラ、グアテマラ等は我方に宣戰し又は國交を断絶せるも本邦に於ては外交機關、領事機關の職務を停止せしめたるのみにて館員及在留民は收容せざりしを以て香港に於ても同様措置あり度但し必要あるものは抑留し差支なし

二 我方同盟國が占領せる國家中白耳義、和蘭及希臘以外の國は帝國に對し正式宣戰又は國交断絶をなし居らざるを以て依然中立國として待遇せられ度但し領事等にして好ましからざるものには事亭上その職務執行を無視するの態度を取られ差支なし

三 第三國領事館は何れ閉鎖を要求することとなる可きも第三國在留民は原則として滞在を許し好ましからざるものに限り退去せしむることとせられ度

註  
同文電 17.00 9-11-41 編入

一七一〇 二〇五九 東通受 (二二四八) 官 屬  
 二二二七 課 受  
 二二三〇 訳 了

着信者、海 軍 省 副 官  
 発信者、香港方面特別根拠地隊司令官

機密第一二四番電 (タナ七〇九) 一〇一七四〇

宛外務大臣  
 發矢野総領事

敵國人取扱に關し左記至急御回電を請う

一 敵國人として收容すべきものの國名

二 我方同盟國が占領せる國家の領事館及在留民の取扱方法

三 獨國が本國に於てなしたる如く中立國外が官領事館及其の國在留民を退去せしむる意思ありや。

電信寫

武野石  
在電  
三子  
定旅

係科  
尺

Handwritten text in a rectangular frame, mostly illegible due to fading and bleed-through.

加

手記  
程々  
中  
之  
因  
然  
物  
印

秘

電信寫

〇八八二  
 二月三日  
 三  
 大  
 〇  
 本  
 五  
 三

4  
16

電信寫

秘

Vertical text within a rectangular frame, likely a telex or telegram message. The text is extremely faint and illegible.

Handwritten signature or initials, possibly reading '中尾' (Nakao).

REEL No. A-1201

0456

アジア歴史資料センター

寫

大臣

東亞局長

第一號

機密第六號

昭和十七年 二月十六日

在澳門

領事代理 福井保光

在香港

總領事代理 木村四郎七殿

中國人、第三國人ノ香港遺留財産手續方ニ関スル件

當地在住中國人及第三國人(在來居住)モノ並香港ヨリ引揚滞留モノ、包含ムニシテ貴地遺留財産保全ノ為救済ヲ願出ツルモノ、動ナカラズ即チ(1)不動産ノ登記 (2)銀行保險函ノ開閉立會等直接本人ノ出頭ニ必要トスルニ不均 香港へノ渡航ヲ完全ニ差止メラレ居

在澳門日本領事館

福井保光

17.2.28

ル現狀ニ於テハ軍所出ノ好意モ却テ彼等ノ在澳意ヲ増スコトナリ遺留ニ存シ居リノ本件ニ関シテハ當地陸軍機關長 澤中佐ト協議ノ上軍經濟部ニ照會方依頼シ置ケルケル特定人ニ對シ白限ヲ附シ渡航ヲ許可スレカ 當館(若クハ陸軍機關)ニ仮登記セルモノハ百效ト見做シ手續ノ延期ヲ認ムルカ如キ辦法ヲ設ケ之ヲ告示セシムル、様希望致シ度甚々御迷惑ヲ存スルモ軍當局ニ對シテハ台必要ヲ力説シ結果何分ノ長御回示相續度此段申進ス

本信寫送付先 大臣、廣東

在澳門日本領事館

字7A700 9-11 (高津)  
 不 懸案  
 條米米米歐

電 信 案	(分類)	行方針ナリ	此種連絡事務ハ本省ニ於テ直接陸軍經由之ヲ	貴電第一六六号ニ関スル	電送第	8087	號	主管	東亞局長
					年	月	日	時	分
外 務 省	第	三 七	號	件	名	香港トノ連絡方核ニ因ル件	宛	在廣東	
					記録件名	香港	發	東郷大臣	

昭和七年三月二日起

(日本標準規格B5)

電信寫

字7A700 9-11 (高津)  
 不 懸案  
 條米米米歐

外機密

第一六六號

本省及在支各公領トノ聯絡方法ニ

香港開港後内地僑三國人及歐國人ニ關スル本省及在支各公領ヨリ  
 照會ハ本ラ常館ニ於テ在香港總領事館へ聯絡シ上處理シ來レル  
 處既ニ内地總領事館ハ閉鎖ナリ  
 此種聯絡事務ハ依然當館ヲシテ行ハ  
 シメラルルヲ將又本省ニ於テ直接陸軍中ノヲ行フ方針ナリ  
 南大ノ北大ノ上海ヘ轉電セリ

廣東 二月二十七日發  
 本省 二十七日發  
 高津總領事

懸案

(分類)

電信案	第 六 一 號	電送第 8094 號	主管 東亞局長
		昭和 7 年 3 月 20 日 午後 7 時 40 分 發	主任 加藤 總領事
外務省	廣東院本大臣宛電報中一六六号 轉電ノ下	件名 宛 在天津	發 東郷 大臣
		香港ノ通信方法ニ関スル件	
		記録件名	昭和 7 年 3 月 20 日 起草

(日本標準規格 B5)

電信案	南大、北大、上海、天津、轉電アリ		
	冒頭貴電ト共、天津へ送付セリ		
外務省			

(日本標準規格 B5)

58



懸案

8091

(分類)

電 信 案	第 一 三 七 號	本大臣發 廣東宛電報	暗 平略	電送第 8088 號	主管 東亞局長
			昭和十七年三月九日	主任 東亞局長	
外 務 省	(總番號第 號 別紙訂正ノ通文)	合第 四一號	件 名	宛	發 件 名
			香港ノ連絡方針ニ關スル件	南大 北太 上海 天津	外務大臣
			記録件名		昭 和 十 七 年 三 月 一 日 起 草

電信課長

發電係

參考

第一

陸軍

陸

軍

昭和十七年三月十三日

香港占領地總督部參謀長

陸軍次官宛

首題ノ件ニ關シ三月九日佛、葡、スイス(名)、アルゼンチン、泰  
三月廿日コスタリカ(名)、デンマーク、エクアドル(名)、ノル  
ウエー、ニカラガ(名)、サルバドル(名)、ドミニカ(名)、ベ  
ル、スペイン(名)、(名)ハ名譽領事(領事ニ對シ可然申渡シ  
タル處何レモ之ヲ了承シ從來日本側カ彼等ニ示サレタル友好的態度  
ニ對シ感謝ノ意ヲ表シ居ルニ付依命通牒ス

香港占領地ニ於ケル第三國領事館閉鎖ニ關スル件

香港ニ於ケル實情（四月三日附黃田書記官ヨリノ  
通信ニ據ル）

（昭和十七年四月十四日 第一）

- 一、涉外案件中最モ問題トナリ居ルモノハ第三國人所有物資ノ件、敵  
産處理ノ件及收容敵入取扱ノ件ナリ
- 二、二十三軍（廣東）カ物資全部ヲ抑ヘ居リ、海軍モ亦自ラノ網張ヲ  
困執シ居ルヲ以テ總督部ノ政務ハ一回進抄セス
- 三、第三國人ノ所（有品モ一括差押ヘラレ居ルヲ以テ此ノ方面ノ陳情  
多シ
- 四、港閉鎖ノ爲外部ヨリ其糧全然入ラサル爲米ノ配給量一人一日一合  
六匁ニ制限サレ之カ緩和方ノ陳情亦多シ

外務省

（日本標準規格B5）

外機密

昭和五年九月十日午後 本報 一日夜着

東郷外務大臣宛電報

在任高津總領事宛

占領地車政實施ニ伴フ第三國權益處理要綱ニ關スル件

附合四〇二號ニ關シ

八月五日香港總督部ハ公示第四號ヲ以テ同管内在庫荷物所有權  
申告ニ關スル件ヲ公布シタル處右ニ關シ今般獨逸總領事ヨリ獨  
逸商社所有在庫品ニ付申付致度キ趣ヲ以テ斡旋方申出アリ元來  
南方占領地ニ於ケル第三國人敵産ノ取扱方ニ付テハ曩ニ冒頭貴  
電御來示ノ次第モアリ從來獨逸總領事申出ニ係ル同國人所有財

電信寫

產ノ返還要求ニ對シテハ香港總督部トモ聯絡ノ上占領直後  
勿キノ折柄未タ詮議ノ時機ニ非サル旨ヲ以テ應酬シ來レル致  
ナリ

ニ仍テ石申越ヲ假令ニ係百個人ノ見解トシ香港所在ノ所謂獨逸財  
產ハ曩ニ英獨戰勃發ト同時ニ英獨官憲ニ押收又ハ沒收セラレタ  
ル經緯アルニシテ大原西開始ト同時ニ右ハ總ヘテ敵國財產トシ  
テ我方ニ於テ押收シ夫々戰時國際法ノ原則ニ照シ措置セララルヘ  
ク御申出ノ儀ハ筋違トニテ當該獨逸人商社ノ損失ハ將來大戦終  
局時ニ於テ兵衛間ノ問題トシテ處理セララルヘキ後ト思考スト運  
ヘタル處同總領事ハ獨逸政府ノ見解トシテ在支獨大臣ノ訓令ニ  
依レハ當初英國閣ハ「オプティン」セルモノニテ一コンフェイス

外機密

電信寫

「ケイト」ニ非ス英國側管理ニ依リ獨逸財産タル性格ヲ喪失セザ  
 リシ次第ニテ結局本件ハ日獨間ニ於テ解決セラルヘント云フニ  
 アリ

右ニ對シ係官ヨリ何ノ途本件ハ國際法上ノ解釋其ノ他ノ問題ニ  
 關係シ居リ遽ニ決定シ難キ問題ナリト應酬シ置ケル由ナリ

南大、上海、北平、廈門ニ轉電ナリ

極

陸海軍

寫

東郷外務大臣宛電報

在廣東高津總領事發

昭和十七年九月一日着

(占領地軍政實施ニ伴フ第三國權益處理要綱ニ關スル件)

香港總督部ハ八月五日公示第四號ヲ以テ同管内在軍所物所有權申  
 言ニ關スル件ヲ公布シタル事今般羅總領事ヨリ右ニ關シ廣東商  
 社所有在軍品ニ付申告或度キ速ヲ以テ斡旋方申出アリ元來南方占  
 領地ニ於ケル第三國人救産ノ取扱方ニ付テハ曩ニ冒頭貴電御來示  
 ノ次第モアリ從來海運總領事申出ニ際ル同國人所有財產ノ返還要  
 求ニ對シテハ香港總督部トモ聯絡ノ上占領直後軍事勿々ノ折柄未  
 タ詮議ノ時機ニ非サル旨ヲ以テ應酬シ來レル次第ナリ

外務省

日本郵政規程第55

三、仍テ右申越ヲ機會ニ係官個人ノ見解トシ香港在ノ所謂獨逸財産  
ハ幾ニ英獨戰勃發ト同時ニ英國官憲ニ押收又ハ沒收セラレタル經  
緯アルニ鑑ミ大東亞戰開始ト同時ニ右ハ總ヘテ敵國財産トシテ我  
方ニ於テ押收シ夫々戰時國際法ノ原則ニ照シ措置セラルヘク御申  
出ノ儀ハ筋違ヒニテ當該獨逸人商社ノ損失ハ將來大戰終局時ニ於  
テ英獨間ノ問題トシテ處理セラルヘキ儀ト思考スト違ヘタル處同  
總領事ハ獨逸政府ノ見解トシテ在支獨大使ノ訓令ニ依レハ當初英  
國側ハ「オブテイン」セルモノニテ「コンフィスケート」ニ非ス  
英國側管理ニ依リ獨逸財産タル性格ヲ喪失セサリシ次第ニテ結局  
本件ハ日獨間ニ於テ解決セラルヘシト云フニアリ

三、右ニ對シ係官ヨリ何ノ途本件ハ國際法上ノ解釋其ノ他ノ問題ニ關

外務省

日本標準時局

係シ居リ處ニ決定シ難キ問題ナリト應酬シ置ケル由

Blank area for the second page of the document.

外務省

日本標準時局

